

■児童・生徒の学力の状況

○学習に意欲的に取り組むことができる。互いの意見を交流したり、考えを深めたりすることに関しては意欲的とは言えない場面もある。

○「全国学力調査」の結果から、知識はあるが問題文の読み解きが不十分で正答につながりづらい傾向にあることが分かる。また学びのエリアでも、言語に関する力が課題とされている。エリア共通めあてを「読書の推進」とし、全ての教科等において読み解く力をつける指導が必要である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○板橋区授業スタンダードSについて研修を重ね共通理解をしているが、実践つながらない面も見られる。

○「読み解く力」の育成を意識した授業を計画・実施しているが、さらなる充実が必要である。

○電子黒板やタブレット等、ICT機器の活用や映像教材を積極的に導入しながら、指導方法や学習内容を工夫し、児童の興味関心、意欲を継続させていく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区授業スタンダードS」推進のため、自己調整学習の授業形態を全ての教室で実施し、学力の向上を図る。

○学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る。

○教育活動全般を通じ、「読み解く力」の指導に重点を置き、言語能力、情報活用能力、問題解決能力など全ての学習の基盤となる力を育む。また、毎時間の授業の「振り返り」記述の徹底を図る。

○適切な言語環境及び言語活動の充実や、電子黒板、タブレット等ICTのさらなる効果的な活用を図る。

○児童が学ぶことに興味関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びの充実を図る。さらに、児童同士の「協働的な学び」、教職員や地域との相互の関わりを通じた「対話的な学び」、知識を相互に関連付けてより深く理解し、問題を見出し、解決策を考える「深い学び」の実現を目指す。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードSの推進	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○自己調整学習を校内研で扱い、研修会や全学級の研究授業を通して実践的に推進を図る。	○読み解く力の育成を計画的に実施するよう、週案に「基礎的読解力」の6項目の記載をし、実践する。	○各教科で培った学びを用いて、計画的に実施する。課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現の学習過程を繰り返すことで、探究的に学ぶ力を育てる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアの4校で連携をとり、9年間を見通した学びを推進する。	○高学年実施している教科担任制や、各学年、各教科担当がそれぞれの視点でカリキュラムを見直すことで、学校の教育活動を教科等横断的に進める。	○令和5年度までの校内研で培ってきた、一人一台端末を活用した授業力の向上の一層の充実を図る。
○学校や地域のあゆみを生活科・社会科・総合的な学習の時間等で学び、「ふるさと高五、ふるさと高島平」の郷土愛を育む。	○学習の内容によって、世話人会やICS委員会に協力を求め、人材の活用をする。	○電子黒板・デジタル教材・映像教材などを活用して、学習内容の理解や児童主体の学習形態の促進を図る。
○緑のカーテン・ハーブガーデン作りを中心に、環境に対する見方や考え方を育成する。	○成果を分析して改善を図ることで、教育の質を高め、子どもたちに必要な資質・能力を育む。	